

令和8年度（2026年度）子どもの定期予防接種スケジュール

定期予防接種は、ワクチンで防げる感染症の発生及びまん延を防止する観点から非常に重要であり、感染しやすい年齢を考慮して感染症ごとに接種年齢を定めて実施しています。基本的には、既定の予防接種スケジュールに沿って実施してください。

ワクチン名	種別	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	～	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
B型肝炎	不活化	①	②				③																				
		標準的な接種年齢：生後2か月以上9か月未満										2回目 1回目接種から27日以上あける 3回目 1回目接種から139日（20週）以上あける															
ロタウイルス	経口生	①	②																								
		ロタリックス® (接種年齢：生後6週から24週0日後まで)										生後6週から接種が可能 生後14週6日までの初回接種が推奨されています。															
		① ② ③										ロタテック® (接種年齢：生後6週から32週0日後まで)															
		① ② ③										④															
		標準的な接種年齢：初回接種の開始が生後2か月以上7か月未満										1～3回目 それぞれ27日以上あける 4回目 3回目接種後、60日以上あけて、かつ、 1歳以降に接種（標準：生後12か月から15か月の間） 接種開始時期によって、接種回数異なります。詳しくは区HP (ID:3078)をご確認ください。															
五種混合 (ポリオ・ジフテリア・百日せき・破傷風・Hib)	不活化	①	②	③																							
		標準的な接種年齢 ・1期初回（1回目～3回目）は生後2か月以上7か月未満										1～3回目 それぞれ20日以上あける (標準的には20日から56日あける) 4回目 3回目接種後6か月以上あける (標準的には6か月から18か月あける)															
BCG (結核)	注射生					①																					
		標準的な接種年齢：生後5か月以上8か月未満																									
水痘 (水ぼうそう)	注射生																										
		標準的な接種年齢：1回目は生後12か月以上15か月未満										① ②															
												2回目 1回目接種後3か月以上あける (標準的には6か月から12か月あける)															
MR (麻疹 風しん)	注射生																										
		1期の接種時期 1歳以上2歳未満										①															
												②															
												2期の接種時期 5歳以上7歳未満で小学校入学前の1年間															
日本脳炎	不活化																										
		2回目 1回目から6日以上あける (標準的には6日から28日あける) 3回目 2回目から6か月以上あける (標準的には1年あける)										① ② ③															
												④															
												標準的な接種年齢： 1、2回目 3歳の間 3回目 4歳の間 4回目 9歳の間															
DT 二種混合 (ジフテリア 破傷風)	不活化																										
		標準的な接種年齢：11歳から12歳になるまで										①															
子宮頸がん (HPV)	不活化	標準的な接種間隔：シルガード®9 (※1) ・1回目接種を15歳未満で受ける場合(※2) 2回目 1回目から6か月あける (計2回接種で終了できます) ・1回目接種を15歳以上で受ける場合 2回目 1回目から2か月あける 3回目 1回目から6か月あける ※1 サーバリックス® (2価) ・ガーダシル® (4価) については令和8年度より定期予防接種の対象外になりました。 ※2 1回目と2回目は最低5か月以上あける。5か月未満である場合、3回目の接種が必要。 標準的な接種期間：中学1年生の間																									
		標準的な接種間隔は左をご確認ください。																									

定期接種期間 ←→ 標準的な接種期間

保護者の方へ

定期の予防接種は、予防接種法によって対象者や接種期間などが定められています。
 予防接種を予約・接種する時は、年齢（月齢）や前に接種した予防接種の種類・接種日を確認しましょう。

☆異なるワクチンを接種するときの間隔☆



注射生ワクチンを接種してから注射生ワクチンを接種する場合、27日以上あける必要があります。
 その他のワクチン間については、令和2年10月1日に制限がなくなりました。（新型コロナワクチン除く）

☆同じワクチンを接種するときの接種間隔の数え方☆

<〇〇日後> 接種日はゼロ日として、翌日からカウントをする

基本は同じ曜日で接種可能です！

●日本脳炎など6日以上の間隔をおく場合はこの日から接種できます。

●五種混合など20日以上の間隔をおく場合はこの日から接種できます。

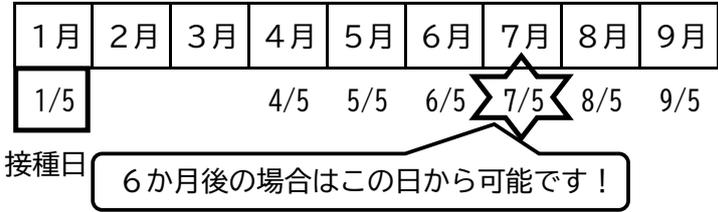
●小児用肺炎球菌・B型肝炎など27日以上の間隔をおく場合はこの日から接種できます。
 （注射生ワクチン接種後に、注射生ワクチンを接種する場合もこの日から接種できます。）



※数えにくい日数
 60日以上=8週後の同じ曜日から4日後（小児用肺炎球菌）
 139日以上=20週後の同じ曜日（B型肝炎）

<〇〇か月後> 〇か月後は接種日と同日以降に接種

例) 【水痘1回目接種終了後6か月以上の間隔をおいて接種】



月末の日にちがなかったら？
 →翌月の1日になります。
 例) 8月31日から6か月以上の場合は3月1日（×2月28日）

「〇か月後」という接種間隔の場合は週数でのカウントではありません!!
 1か月後≠4週間後

▼区HP「子どもの予防接種について」二次元コード

